

1-3-24-2 旗鉾 くだがい神事

くだがい神事は、今からおよそ 6 百年前より、ここ旗鉾伊太祁曾神社境内において正月 14 日に執り行なわれている伝統の神事である。

起源は、作柄の吉凶を占うものであり、釜の四方を笹で囲うのは、猪や兎等の鳥獣から作物を守る呪いであると言われている。また、一説には、空腹をしのぐため、集落の人々が稗や粟等を持ち寄り、薪の代わりに使った麻がらを一緒に釜で煮、粥として食したことが始まりだとも言われている。

神事は、占い事を書き記したサワラの札（木札）と麻がらを麻皮で縛り、米・小豆・大豆と一緒に粥として炊きあげ、麻の管に入ったそれらの穀物の量によりその年の吉凶を占うものである。

なお、占いの結果は項目毎、くだがい帳に記帳される。

文化財指定概要

名 称 旗鉾 粥占い くだがい神事
麻がら 毎年作
材 料 米・小豆・大豆
無形文化財指定 昭和 63 年 9 月 21 日

説明板より